

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400042		
法人名	株式会社ブレインシステム		
事業所名	グループホーム水垂の里		
所在地	静岡県掛川市水垂126-1		
自己評価作成日	平成26年12月30日	評価結果市町村受理日	平成27年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2297400042-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援、残存能力の維持につとめ、出来る事を日々の生活で行って頂く ・入浴のない方には足浴を提供し、水虫をなくすよう努めている ・おむつはずしに努める。昼間布パンツ、夜間のみ必要の方のみ紙パンツ対応 ・水分摂取、水の生理学を学び、水分摂取に努めている ・感染症対策として、スタッフ出勤時退社時衣服を着替えている(菌を持ち込まない、持ち出さない) ・地域交流、地区の行事参加又研修センターを地区に開放している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昨年8月、ケアに対する見解の相違から退職者が続き1ユニットのみの運営となっています。体制を整え質の向上を約諾し、法人内他事業所への転所を余儀なくされた利用者もあります。力量の差はありながらも「この介護ができるのは『水垂の里』だけ」「私達の一人でも欠けたらこの人の笑顔を守れない」との信念を貫く職員に支えられ、自立支援の本質を追求するケアで事業所の再生を図っています。“自分の足で歩く、食べる、”“快い排泄をする、選択する、”本人が有する力を最大限に発揮し安易な介助をしない “待つケア、”で、ここにしかない安堵感に包まれています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が、理念を意識し実践出来る様努力している	理念は読み上げるだけでなく日々のケアに結びつけていくものとして、「扉を開ける時にはロックする、トイレのドアはしっかり閉めることがプライバシーと尊厳を守る」と示し、一つひとつの行為を理念に導いています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動に積極的に参加している	秋祭りには屋台が立寄り100人分のお菓子を準備する中、子ども達と成年部の踊り披露がありました。1ユニットとなりましたが、理解ある地域の応援を得て例年通り遂行しています。中高生の職業体験も受入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会などで、地域の方に理解してもらえる様話している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様の意見を聞きながら業務に活かしている	体制の見直しを諮つた月を除いて2ヶ月ごとに開催し地域包括支援センター職員、正副地区長と家族、複数の利用者が参加しています。経過報告を中心に出席できなかった家族には都度手紙や電話でお知らせしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長とケアマネが事業所連絡会に参加している	年度初めの運営推進会議には高齢者支援課も足を運んでくれ、また地域包括支援センター職員が毎回同席しています。年2回、ケアマネージャー連絡会における全体会と事業所部会で情報交換や困難事例を協議しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を県に提出してる	「ちょっと待つて」は職員都合であり、先ずはどこに行くのかを訪ね、熟練者の所作に学ぼうと伝えています。毎日の記録から主治医の指示を仰いで薬の減量を進め、立位保持が可能になった例もありドラッグロックへの高い意識が視えます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束フォーラムに職員参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を通し、全スタッフに統一するよう努めている。 今後も研修を通し学んでいきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、ケアマネを中心に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と会ったときなど意見を聞き、日頃の業務に活かしている	面会や電話連絡での個々の対話を重ねています。意見を引出すため施設長はじめ担当職員から声をかけ「何かご希望はございませんか」と必ず申し添え、収束した要望に誠意をもって応じています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーション、ユニット会議等で意見を聞く機会を設けている	ユニットを統合した際チームワークを深めようと話し合い報連相の徹底に繋がっています。勤務表も職員が輪番で作成しています。議題解決のためにその日のうちにミニカンファレンスを開いています。	2ユニット体制の再始動に向け、また今後入職となる人たちが一緒に働きたいと思えるような魅力づくりについて、法人のバックアップも得つつ進められることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、向上心を持ち、働けるよう設備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に参加できるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで同業者と出会える場を大事にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望を聞き、良い関係を持てるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長、ケアマネを中心に、ご家族の要望を聞き、良好な関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族にこれまでの生活歴などを聞き、必要としている支援を見極める努力をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来る限りのことをしてもらい職員も共に生活していることを感じてもらえるよう努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の絆を大切にし、行事など積極的に呼びかけ、本人とご家族が交流できる機会を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望に出来る限り添えるよう努めている	家族の協力によりお墓参りに出かけたり、馴染みある産業祭や掛川大祭へ出向いて知人との再会を喜び合っています。畑仕事や草取りを続けてくれる人や春先の筍掘りに精を出す人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや家事などを通し職員が間に入り利用者同士関わりをもてるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族様から悩みを相談をいただき、アドバイスさせていただいて関係を築いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの希望や思いを把握し、叶えられるよう努力している	新人職員には手本となる先輩の動きを観察し、ソファーに腰かける時は利用者の間に寄添うよう伝えています。落ち着きがない人には「何がしたいの」「どうしたいの」と目線を合わせて耳を傾けるよう促しています。	障がい者雇用への取組みは社会的に評価されますが、方針としている利用者本位との兼ね合いについて改めて検討することを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から情報を聞き生活を把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に寄り添い、心身の状態を把握するよう努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行い、職員、ケアマネを中心に話し合い介護計画をたてている	個別援助計画、介護計画、個人記録と連絡ノートを踏まえて記録に連動するよう指導しています。退院後の不安定な時期は期間を定めてモニタリングをおこない、面会や電話でも家族から聴取しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートを利用し職員間で共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とコミュニケーションを取りその時々生まれるニーズに対応できるよう心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の暮らしを把握し、本人の力を発揮できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は本人及び家族の希望を大切に、またこちらからの情報を伝えかかりつけ医と良好な関係をつくるように努力している	4名がかかりつけ医を継続し5名は協力医に変更しています。受診は主治医宛の手紙とバイタルチェック表を添えて家族にお願い、専門医によっては日常の様子を把握する管理者が同行しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないが、気付いたことは早く連絡する様にしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリや退院サマリ、見舞いに行った際、情報交換をするようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から取り組むようにしている。また今後も迅速な対応ができるよう努めている。	看護師不在となり医療連携が難しい中、「最期の最期まで食べられて良かった」との言葉を家族からもらったことが職員の励みになった例もあり、医療行為が必要な場合を除き看取りに取組みたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルの確認を全職員で行っていく急変や事故発生時の職員連絡網はできている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と連携し協力できている。定期的に避難訓練を行っている	年2回消防職員の立会いを含め実施しています。近隣からは「何かあったら助けるよ」との応援の声もあり、一連の手順はマニュアルと掲示で周知していますが夜間は職員1名となるため専門業者による緊急連絡機能を備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合った言葉かけや対応を心掛けている	申送りやユニット会議は利用者から離れた場所でおこない、時には筆談でプライバシーに配慮しています。言葉かけや対応は「自分の身に置き換えてほしい」と伝え、持てる力を最大限に引き出す「待つ、ケアが実践されています。	職員の真面目なハードワークが事業所の大切になっている質の高いケア呼応し、現状は確かな介護が実現していますが、無理なく継続させるための方策について話し合うことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を決定できるようにしていきたい		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて行うよう心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った身だしなみをできるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りはあまり一緒には行っていないが、一緒に昼食を摂ったり、片付けはやっている	「お手伝いしたい」と思うタイミングに合わせてお願いしています。「自分で食べることは生きる意欲に繋がる」として、安易な介助は勧めていません。鶯餅、ぼた餅、柏餅といった馴染みある行事食には全員で関わっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、1人ひとりに合わせた提供をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをし、月2度歯科医歯科衛生士の健診、指導を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを外し自立支援を行い、1人ひとりに合わせた排泄支援を行っている	布パンツの快適性を重視し夜間もパッドを併用するだけで過ごすため皮膚疾患が軽減しています。薬に頼らない自然排便を目指しており乳酸菌が功を奏しています。野菜ジュースや運動も積極的に取入れています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握し、身体を動かしたり、毎朝ヨーグルトを摂取し予防している また1人ひとりに合わせた薬の調整をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調をみてなるべく本人の希望に添うように支援している また入浴剤を使用したりして楽しめるよう工夫している	週2日を目安として入浴しない人は足浴をしています。浴槽に入ることを怖がった人が柚子湯を見てスムーズに入浴できた例があり、湯を一人ひとり張り替え5種類の入浴剤から選択できる楽しさを設けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活リズムや体調に合わせて、気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい職員もおり、全員は理解できていない。 普段と少しでも違った症状が現れた時はご家族や主治医に相談するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事など共に行い、1人ひとりに合わせた楽しみごとや役割を支援できるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりの希望に沿って外出してあげたいが、実際はなかなかできていない	重度化もあり散歩が減っていますが、日当たりの良い処でおやつを食べたり畑の水撒き、草取りといった外気に触れる機会は作っています。誕生日は「何がしたい？」と個別に聞き取り、喫茶店へアイスクリームを食べに出かけたこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約上個人管理はしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば、ご家族に協力してもらいながら行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はいつも清潔にし、季節感を取り入れた壁画を作っている	季節ごとに壁面を飾り付け、個々に制作した干支のちぎり絵が穏やかな暮らしを物語っています。感染症対策には加湿器を備え、除菌水での清掃に加えて外から持込まないよう手洗い、うがいの励行、マスクの着用で蔓延を防いでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者1人ひとりに添い、ソファで過ごしたり食席で過ごしたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅で使用していたものを持ってきてもらうようにしている	就寝時に廊下からの灯りを遮る目隠しが貼られた居室もあり、安眠のため枕は持ち込んでもらっています。エアコンの風が直接当たらないようにベッドを設置し、冬季はできるだけ加湿器をお願いしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所がわかるよう名札をつけている		